研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著， 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概　　要
(著書(欧文)) 1. 2.				
(著書(和文)) 1. リカバリーのためのSchizophrenia Nursing統合失調症をもつ人の身体症状へのケア：No12 手術を受ける人のケア	単書	Dec-20	先端医学社	統合失調症を持つ人の様々な身体症状にかんするケアを生物学的視点，心理学的視点，社会的視点から記載をした。内容は，統合失調症患者の抗精神病薬や精神症状から，どのような身体変化が起こるのかなどベースを示し，その後，手術をすることによる影響を記載した。さらに，周術期標準看護に加えて，統合失調症患者に必要だと思われるケアを，文献レビュー，インタビューの結果から提案した。
2. 看護学テキスト NiCE　精神看護学I こころの健康と地域包括ケア改訂第3版　現代に生きる人々のこころの健康を支える	共著	Jan-22	南江堂	精神看護学の基盤となる知識をやさしく解説した好評テキストの改訂版．今改訂では，精神保健，現代社会病理を踏まえた精神看護の目標・役割，地域包括ケアシステムや多職種連携の記述を充実させた．一般病棟における精神症状への看護（リエゾン精神看護）について「バイオ・サイコ・ソーシャルモデル」を活用して事例展開をしている．
3. 看護学テキスト NiCE　精神看護学 II 地域・臨床で活かすケア改訂第3版 対象者の力を引き出し支える	共著	Jan-22	南江堂	精神看護の実践に役立つ知識をわかりやすく解説した好評テキストの改訂版．「バイオ・サイコ・ソーシャルモデル」を踏まえ，精神看護の対象者をトータルにアプローチする視点を学べる．今改訂では精神科訪問看護など地域での看護実践の記述を強化し，ひきこもりや虐待の事例も追加した．
4. ストレングスからみた　精神看護過程　＋全体関連図，ストレングス・マッピングシート	共著	Dec-21	医学書院	対象者自身が望む「自分のなりたい姿」を目標に、対象者の考えや経験等をストレングスとして活かす視点から看護過程を解説する待望の書。ストレングスモデルで把握できる強みだけでなく、生物学的・心理学的・社会的情報（BPSモデル）、セルフケアに関する情報も併せたアセスメントのポイント、ストレングス・マッピングシート、取り組むことの見出し方、全体関連図、看護計画の立案と実施、評価までを指南する。
(学術論文(欧文)) 1. 2.				

(学術論文(和文))				
1. 他害行為によって精神科病棟に入院中の患者への看護ケアにおける困難の分析 学位論文（修士）	単書	Mar-10	聖路加国際大学	他害行為によって精神科病棟に入院中の患者への看護ケアの困難に関する文献レビュー
2. 精神科訪問看護が当事者のリカバリーに果たす役割と機能：当事者のナラティブ（査読付き）	共著	Aug-19	日本社会精神医学会誌28巻3号 pp.305-306	当事者によるフォーカスグループデータから，精神科訪問看護が当事者のリカバリーに果たす機能と役割について，当事者の語る言葉を用いて記述した　共著者：萱間 真美，小高 恵実，木戸 芳史，村方 多鶴子，青木 裕見，福島 鏡，高妻 美樹，角田 秋，石井 歩，西井 尚子，瀬戸屋 希　担当部分：データ収集，データ分析，論文執筆・推敲
(紀要論文)				
1.				
2.				
(辞書･翻訳書等)				
1.				
2.				
(報告書･会報等)				
1. 精神障害者の訪問看護におけるマンパワー等に関する調査研究	共著	Mar-09	平成20年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 報告書	精神障害者の地域移行支える重要なサポートである精神科訪問看護について、訪問看護ステーションからの精神科訪問看護の実施頻度、対象、業務内容、について調査し、特に複数名訪問の実施の実態と関連する要因、効果について、医療機関からの訪問看護の実態と共に明らかにすることを目的とした。病院ではソーシャルワークや相談など援助内容の質を高めるために複数訪問が活用されているのに対して、訪問看護ステーションからの複数訪問は、制度上精神保健福祉士などが活用されていないという状況から、利用者と援助者双方の安全を守る目的を主として実施されることが多い現状が伺えた。以上の結果より、今後精神科訪問看護を普及し、質の高いケアを提供するために必要な制度やサポート体制について検討することができた。共著者：萱間 真美，松原 三郎，佐藤 茂樹，高木 俊介，仲野 栄，上野 桂子，小川 忍，角田 直枝，立森 久照，岩田 宗久，川田 和人，瀬戸屋 希，沢田 秋，石井 歩，小川 弘美，福山 友紀子，角田 秋　担当部分：データ収集，データ分析，論文執筆・推敲

2. 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（精神障害分野）精神障害にも対応した地域包括ケアシステムのモニタリングに関する政策研究　訪問看護に関する調査	共著	Mar-18	厚生労働省研究成果データベース	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課では、毎年6月30日付で全国の精神科病院、精神科診療所、障害者福祉施設・事業所、および精神保健医療福祉行政の状況について調査を行ってきた。このいわゆる630調査はわが国の精神保健福祉のモニタリングにおいて貴重な資料となってきた。630調査のプロセスを迅速化させたうえでより効果的なモニタリングを行い、厚生労働科学研究班「精神科医療提供体制の機能強化を推進する政策研究」とも密に連携して、医療計画等に資するデータを収集するとともに利用者が分析しやすいデータベースを開発することを本研究の目的とした。調査形式の大幅な改善により、高い回収率を保ちつつ調査プロセスの迅速化に成功した。また調査項目の再選定により、医療機関の機能や各自治体における精神保健医療福祉の現況についてより適切な把握が可能となり、NDBから得られたデータと合わせて精神保健医療福祉の現況を一元的に把握できる新しい精神保健福祉資料の主要部分を完成した。担当部分：質問紙作成・修正，データクリーニング　共著者：萱間 真美,角田 秋,福島 鏡,青木 裕見,石井 歩,瀬戸屋 希
3. 厚生労働行政推進調査事業費補助金障害者政策総合研究事業（精神障害分野）精神障害者の地域生活支援を推進する政策研究訪問看護における多職種アウトリーチに関する研究	共著	Jun-18	厚生労働省研究成果データベース	「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」構築を通じた精神障害者の社会復帰及び自立並びに社会経済活動への参加促進のため、①自治体による精神障害者支援のあり方、②地域における精神科リハビリテーション、③包括的支援マネジメントのあり方、④地域における危機介入及び措置入院に関する課題、⑤権利擁護のあり方に関する課題について、９つの分担班により研究を実施した。共著者：萱間真美,木戸芳史,角田 秋,福島 鏡,青木裕見,高妻美樹,石井 歩,根本友見,松井芽衣子,瀬戸屋 希　担当部分：データ収集，データ分析
4. 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））精神障害にも対応した地域包括ケアシステムのモニタリングにも関する政策研究　精神障害にも対応した地域包括ケアシステムのモニタリングに関する政策研究	共著	Aug-19	厚生労働省研究成果データベース	2017年度の調査実績と集計を通して得られた改善点を分析し、それを生かした調査票への反映などを行い、より精度の高い精神保健福祉資料の作成を作成すべく調査票の改善を目指した。また自治体調査において、精神医療審査会の項目を新たに630調査に統合した。更に調査票や集計システムのブラッシュアップを行ったことで、精神保健福祉資料がユーザーにとってより活用しやすい資料となっていると考えられる。　共著者：萱間 真美,角田 秋,福島 鏡,青木 裕見,石井 歩,瀬戸屋 希 担当部分：データ収集，データ分析，論文執筆・推敲

5. 主体的人生のための統合失調症リカバリー支援 ー当事者との共同構造co-productionによる実践ガイドライン策定　日本医療研究開発機構AMED 日本医療研究開発機構AMED・障害者対策総合研究開発事業・精神障害分野④精神疾患の標準的治療ガイドラインの策定に関する研究	共著	Mar-19	AMED研究開発課題データベース	統合失調症の治療について、自覚的なQOL向上と他覚的な社会機能改善を統合したリカバリーを目標に、当事者･家族の主体性と多職種専門家の科学性を統合した共同創造co-productionで脳機能と生活についての支援手法を開発し、日本の臨床現場で利用され普及し進化する実践ガイドラインの策定に取り組んだ。「統合失調症リカバリー支援ガイドー当事者・家族・専門職それぞれの主体的人生のための共同創造」（第 1.1 版）を作成した。共著者：福田正人，金田渉，山口創生，村井俊哉，萱間真美，西田淳志，向谷地生良，丹羽真一，笠井清登，橋本亮太，栃木衛，稲垣晃子，坂田増弘，佐竹直子，伊藤順一郎，吉田光爾，佐藤さやか，角田秋，木戸芳史，大橋明子，　石井歩，安西信雄，担当部分：データ収集，分析，実践ガイドラインの執筆
(国際学会発表) 1. 2.				
(国内学会発表) 1. 専門看護師の活用促進に関する実態調査	共著	Mar-18	日本CNS看護学会	現在臨床で勤務しているCNSがどのように活用されているか実態調査をした。
2. 精神科訪問看護が当事者のリカバリーに果たす役割と機能：当事者のナラティブ（査読付き）	共著	Mar-19	日本社会精神医学会	当事者によるフォーカスグループデータから，精神科訪問看護が当事者のリカバリーに果たす機能と役割について，当事者の語る言葉を用いて記述した。共著者：萱間 真美，小高 恵実，木戸 芳史，村方 多鶴子，青木 裕見，福島 鏡，高妻美樹，角田 秋，石井 歩，西井 尚子，瀬戸屋 希　担当部分：データ収集，データ分析，
3. 統合失調症患者の術後ケアを行った看護師の体験と患者の術後経過の特徴（査読付き）	単著	Jun-19	日本精神保健看護学会	精神科身体合併症管理加算を届け出ている施設で入院して手術を受けた患者のうち統合失調症患者の術後ケアを行った看護師が体験した困難の実情と、統合失調症患者の術後経過の特徴を、研究対象者の言葉を用いて記述した
4. 統合失調症患者の再手術後に看護師が工夫した周術期ケア（査読付き）	単著	Aug-30	日本精神保健看護学会	統合失調症患者の術後ケアを行った外科系病棟の看護師が再手術後に工夫したケアを明らかにした。
5. 重症精神疾患患者に有効だと考えられる周術期ケアの要素に関する文献レビュー（査読付き）	単著	Dec-20	日本看護科学学会	重症精神疾患患者の周術期に有効だと考えられる看護ケアの要素を明らかにした。
(演奏会･展覧会等) 1. 2.				
(招待講演･基調講演) 1. 2.				
(受賞(学術賞等)) 1. 2.				

研　究　活　動　項　目						
助成を受けた研究等の名称	代表，分担等の別	種　類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概　　要
（科学研究費採択） 1. 重症精神疾患患者周術期ケア質向上に向けた参加型学習プログラムの開発と評価	代表	基盤研究C	2020年度	聖路加国際大学	1,300千円	本研究は，実際に重症精神疾患（統合失調症，双極性感情障害，大うつ病性障害，と統合失調症に関連する精神病性障害：Severe Mental Illness ： SMI）患者に周術期ケアを実施している看護師へ主体性を持って参加できる参加型学習プログラム「SMI患者周術期ケア学習プログラム(LPPC-SMI:Learning Program for Perioperative Care of Severe Mental Illness)」を看護師とともに開発することで，周術期ケアの質向上を目的としていた。 しかしCOVID-19の世界的な蔓延により，対面のディスカッションを主としていたプログラム　の実施が困難となった。そのため，LPPC－SMIを対面のディスカッションでなくても学習効果があるイーラーニングで開発することとした。 学習形態が変更となり，対象看護師の協力がCOVID-19を受け入れることにより難しくなったため，LPPC－SMIを基に対象施設の医師，専門看護師らと相談しながらイーラーニングを作成した。また，イーラーニングをより効果的に作成するためにWebデザイナーにもイーラーニング作成に参加していただいた。 しかし，本事業は研究者が研究施設退職により補助事業廃止となったため，終了となった。
（競争的研究助成費獲得(科研費除く)） 1. 2.						
（共同研究･受託研究受入れ） 1. 2.						
（奨学･指定寄付金受入れ） 1. 2.						
（学内課題研究(共同研究)） 1. 2.						
（学内課題研究(各個研究)） 1. 2.						
（知的財産(特許・実用新案等)） 1. 2.						